



Higashiyamato no

ひがしやまとの

こくさい こうりゅう

kokusai koryu



「アルゼンチン通信」

～JICA ボランティアからの活動報告～

Vol.4 2019年3月発行

みなさんこんにちは！ 日系社会青年ボランティア曾根友美です。アルゼンチンの首都ブエノスアイレスからアルゼンチンの文化や日系社会について紹介してきましたが、派遣期間も残り少なくなりました。

アルゼンチンは観光スポットがたくさん！ 世界の果て ウシュアイア



日本からは遠いですが、とても自然豊かなところですよ。

機会があればぜひいらしてくださいね！

アルゼンチンの南端です。南極に近く、1月は夜10時過ぎまで明るく、日が長いです。国立公園になっており、自然豊かで珍しい植物や、マゼランペンギン、時にはキングペンギンにも出会えます。そのほか、カニ料理が名物です。



カラファテのモレノ氷河

アルゼンチン南部のパタゴニア地方には、巨大な氷河があります。夏の終わりには氷河の氷が崩れる瞬間を見られることもあります。温暖化で少しずつ氷河は溶けてきているそうです。こちらも国立公園になっています。写真はアイゼンをつけて氷の上をトレッキングした時のものです。氷河の氷を使ってウイスキーのオンザロックを味わいました。



北西部の塩湖 サリーナ・グランデス

アンデス山脈に近いサルタ州には、標高の高い場所に大きな塩湖があります。大昔は海だったので塩があるそうです。現地の住民は高山病予防として、ココアの葉を噛みます（日本では禁止です！）。5月の乾季に旅行したので、水はほとんどなく、真っ白い景色でした。左はガイドさんに撮ってもらった、ものすごくジャンプして見えるトリック写真です。

七色の丘 プルママルカ

同じく北西部のフイ州には、さまざまな色の地層が折り重なる珍しい景色があり、七色の丘と呼ばれます。それぞれの地層に含まれる鉱物(銅、鉄など)で色の違いが出るそうです。写真の展望台は高度 4000 メートルを超えます。深呼吸をして、ゆっくり歩くようにしましょう。ここからさらに北へ進むと、14色の丘、ウマウワカもあります。近くにはカファジャテというワインの産地があり、ワインボデガめぐりも楽しめます。



アルゼンチンで通じる？日本語



必ずしも 100%の認知率ではないですが、私が実際に使われている場面に出会った言葉です。



“Sushi”（寿司：ほぼ全員知っています）、“Emoji”（絵文字：メールの丸くて黄色い顔のマークなど）、“Cosplay”（コスプレ：“Manga 漫画”や“Anime アニメ”も通じます）。その他、固有名詞ですが「TOYOTA」「HONDA」「YAMAHA」などは街で車やバイクを見かけるので皆さんご存知です。

日本文化では “Origami(折り紙)”、“Bonsai”(盆栽)などでしょうか。意外なのは “Hakusay”(白菜)、八百屋で売っています。ただしスペイン語で H は発音しないので、読み方は HONDA→オンダ、Hakusay→アクサイになってしまいます。



♪アルゼンチン・タンゴ♪

写真協力: La Viruta Tango de Solanas ↓ →

アルゼンチン・タンゴは 19 世紀後半、ブエノスアイレスとその対岸のウルグアイの港町で、スペインやアフリカの音楽が融合して生まれたダンスおよび音楽と言われます。大衆酒場の音楽から始まり、今ではアルゼンチン文化を代表するものの一つです。歌詞は、男女の恋愛と失恋に郷愁など、演歌に近いように思います。どちらかといえば年配の方に好まれ、歌、ダンス、そしてバンドネオン(アコーディオン似た楽器)の演奏など、いろいろな楽しみ方があります。

私も少しダンスを習っています。踊りの先生方は大変美脚なので、スタイルが良くなることをちょっぴり期待しています(笑)



←8月に、毎年ブエノスアイレスで行われているアルゼンチン・タンゴのダンスの世界大会を見てきました。2017年は日本人ペアが優勝しました。

マテ茶

アルゼンチン北部やパラグアイなどで採れるマテの木の葉をお茶にしたものです。アルゼンチンでは大変ポピュラーで毎日飲みます。ティーバッグもありますが、伝統的には専用の器「マテ」に茶葉をたっぶり入れて、70度以下のお湯を注ぎ、ストロークで飲みます。一つの器で回し飲みをするのが普通で、お茶を飲みきったら、同じ器にもう一度お湯を注いで、お客さんに渡します。夏は冷やして飲むものもあります。緑豊かな公園へポットとマテ茶セットを持参して、家族や友達とのんびりするのがアルゼンチンの正しい休日の過ごし方です。車の運転でも、仕事の店番中でも、ポットとマテを持ち歩く人が多いです。



活動のふりかえり

私の活動内容は、前任の JICA ボランティアから引き継いだものです。現時点では、どの程度の成果を出せたのか客観的に整理はできていません。日本人がアルゼンチンに移住して長い年月が過ぎ、多くの日系の方々は、立派にこの土地に根差して仕事をし、家族を守って暮らしています。各地の日本人会でお会いする方々は、子どもは大学を出て、医者になっている方もいて、時々家族で日本へ旅行しています。一見特に困りごとはなく、福祉に関する問題点を把握することは難しかったです。経済的に困っている方は日本人会の集まりに出てこないで実態把握が難しいこと、高齢者の世話は家族の責任という考え方が根強いこと、働いている団体では新たな福祉の取り組みをする計画がないことから、介護を受けている高齢者及びそのご家族のニーズについて十分な汲み取りはできませんでした。結果として、高齢者のお楽しみ会への巡回を中心に、日常生活動作に介護を必要としない、元気な高齢者の方との交流が中心となりました。しかし、既存のボランティアグループのいくつかは活動が活性化しています。

① お楽しみ会での体操やレクリエーションの提供

いくつかのお楽しみ会では、JICA ボランティア以外の、現地ボランティアさんによる体操やゲーム、踊りなどの出し物が披露されています。その場合、私はお手伝いに徹して、できるだけ皆さんにお任せしています。そのほうが JICA ボランティアのいない時も、お楽しみ会が継続できるからです。

② 高齢者付添人養成講座→

あるボランティア団体では、「高齢者付添人養成講座」が開催されました。有志の日系の講師陣によって、医療、心理、栄養、認知症予防、歩行介助などの講義が行われました。アルゼンチンでは、自宅での訪問介護や看護は、個人でお手伝いさんや看護師さんを雇う場合が多く、看護師さんを毎日



頼むと費用が高くなります。講座の修了書を受け取った受講生が、ちょっとした世話や簡単なことを頼める付添人になってくれることが狙いです。日本で経験していた老人ホームのボランティア養成講座や、認知症サポーター養成講座などからアイデアを提供し、講師をお手伝いしました。

③ 日本語学校での福祉授業

前任者に引き続き、高齢者体験や日本語対应手話などを紹介しました。福祉に関する授業を受けたことのない子どもも多くいましたが、みなさん意見や質問をたくさんお話しして、真剣に考えてくれました。日本語学校は日系コミュニティの核となる場所で、先生方の理解も、とても重要です。

④ 自分史作り

日本では老人ホームなどで高齢者の人生経験を聞いて本にまとめる、「自分史づくり」という活動があります。これを、アルゼンチンの日系高齢者住宅の居住者にご協力をいただき、実施しました。8名の高齢者にお話を聞き、本人の了解の範囲で、日本語とスペイン語両方で書かれた8冊の短い絵本を作りました。スペイン語は、日本語学校の先生が手直ししてくださいました。

↓日本語学校の子どもたちから高齢者へ自分史の本を贈呈



先生の協力を得て、日本語学校の生徒たちがさし絵を描いてくれました。そして、毎年恒例の高齢者住宅と日本語学校の交流会の場で、絵本の贈呈式をしました。子どもたちが描いてくれた絵を眺める入居者の方々の顔はとても輝いていて、嬉しそうでした。

そして、作った絵本のうち3名の方には許可をいただいて、アルゼンチン日本人会の移住資料室に資料として寄贈をさせていただきました。

⑤ 日系子弟の医療・福祉関係者のネットワーク強化

JICAの事業の一つに日系研修があります。中南米など日本国外に暮らす日系子弟が日本に行って専門技術や日本文化などを学ぶ制度です。この制度のおかげで自身のルーツである日本に初めて行くことができた日系2世、3世も多くいます。中には日本へ医療や福祉の研修に行ってきた医師、理学療法士、作業療法士などの専門職の方々もいらっしゃいます。彼らは、今後の日系社会を担っていく人材なので、日系高齢者のための福祉の活動について知ってもらうように働きかけたいと考えています。一緒に働いているもう一人のJICAボランティアさんと協力し、元研修生の会議を定期的に行い、ネットワーク強化をしたいと考えています。

盆踊りと日本祭り



時々日本のテレビ番組でも紹介されていますが、アルゼンチン各地で日本風のお祭りが開かれています。写真は、2019年で20回目を迎えたブエノスアイレス州のラプラタ盆踊りです。来場者は1万人以上、その多くはアルゼンチンの方です。みなさん盆踊りを楽しく踊ります。和太鼓や沖縄の太鼓などの演奏があり、海苔巻き、焼き鳥などの日本食や、折り鶴、招き猫、アニメグッズなどの出店が並び、打ち上げ花火もあります。お祭りは、日本人会の大事な収入源でもあり、日本の良いイメージづくりに大きな効果があります。

アルゼンチンの私立の老人ホーム→
10名以上の日系人が入居中。
NGOの訪問に数回同行しました。



←サルミエント盆踊りに遊びに行きました。
打ち上げ花火も素晴らしかったです。

まとめ

JICAの「日系社会青年ボランティア」として、アルゼンチンで暮らして、とても貴重な経験を得ました。JICAの皆さん、歓迎して下さった日系社会やアルゼンチンの皆さん、「ひがしやまのこくさいこうりゅう」の東大和市地域振興課の皆さん、送り出してくれた職場の皆さんに改めて感謝を申し上げます。応援してくれた友人、家族にもお礼を言いたいです。

不勉強でアルゼンチンのことも、日本人の移住の歴史も全く知らなかった私ですが、日本から世界で一番遠いアルゼンチンに、今ではとても親しみを感じるのが不思議です。外国で暮らしてみて、日本のことも改めて考えるようになりました。こちらに来てから、いろんな国の人が故郷から離れて暮らしているし、血統だけでは自分のアイデンティティは語れないことを痛感しています。日本が国際社会でやっていくためには、もっといろいろな国との人的な交流が必要だとも思いました。生まれながらに日本とアルゼンチン、二つの祖国を持つ日系社会の人たちは、これからの日本のグローバル化を支える貴重な人的資源だと思います。日本人は日系コミュニティについても、もっとよく知っておく必要があります。それを知らせるのが派遣後のJICAボランティアの役割なのかなと考えていますので、日本の皆さんにお土産話をするのを楽しみに、残りの期間を健康と安全に気を付けて楽しみたいと思います。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

編集・発行 東大和市 市民部 地域振興課 市民協働係
東大和市中央3丁目930番地
電話：042-563-2111（内線1711・1716）
E-mail：chiikisinko@city.higashiyamato.lg.jp